

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	Academic Written English I		
英文授業科目名	Academic Written English I		
開講年度	2007年度	開講年次	1年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化基礎科目 I		
開講学科・専攻	情報通信工学科 知能機械工学科		
担当教官名	西村 芳康		
居室	東1-714		

公開E-Mail	授業関連Webページ
eigokyoumu@bunka.uec.ac.jp	http://www.office-m2.co.jp/denki

【主題および達成目標】
<p>金曜1限</p> <p>基礎レベルのacademic written Englishに使用される英語を理解し、書けるようになることを目標とする。授業では、目標達成のために言語理論と学習理論を統合したさまざまな教授法を利用する。学生は、積極的に授業に参加することを通して、書き言葉としての英語を使用する能力を伸ばすことが期待される。(学習要覧から)</p>

【前もって履修しておくべき科目】
とくになし。

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
とくになし。

【教科書等】
<p>前・後期(継続使用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ American Pie (Kay Hetherly著、NHK出版) 日常的な話題をもとに日米の文化やものの見方の違いを論じたエッセイ。 ・ 英検準2級予想問題集(旺文社)

電気通信大学 平成19年度シラバス

【授業内容とその進め方】

(注意：この授業は後期と密接に関連するので、継続して履修するのが望ましい)

第1の目的は、読解力の向上を図るために「文章構造の認識」と「文脈の理解」ができるようにすることである。高校までに習った基礎的知識をテキスト英文に応用して、中心的な内容をつかんでいく方針。読解テキストはエッセイ20編だが、1回の授業60分で1編の約半分(約2頁の英文)を扱う予定。さらに、テキストの英語は自分が英語を書くときの見本だという観点を身につけるように、その方法を実践する。

後半の30分では英検問題集を使う。第2の目的は自分の考えを基本的な英語で表現する基礎を固めることである。まず授業中では問題を解いて語法などの説明を受ける。さらに、宿題として問題中の英文を利用して英作文を行ない次回に提出する。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

評価方法

- (1) 期末試験(受験には授業回数の3分の2の出席が必要条件)
- (2) 出席状況(妥当な理由のない欠席・遅刻は減点評価をすることがある)
- (3) 授業中の態度や、発表の仕方
- (4) 臨時に小テストする場合がある。

評価基準

以下の2つの基準に基づく。

(大学作成)

100～90点は秀、89～80点は優、79～70点は良、69～60点は可、60点未満は不可。

平成16年度以降は「評価平均」が導入されて、不可や履修放棄は0点として計算に入れられるので注意すること。

(英語教室作成)

合格者の20(+/-10)%は秀と優、合格者の40(+/-10)%は良、合格者の40(+/-)%は可、それ以外は不可。

【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、電話やメールなどで事前に予約を取ること。

【学生へのメッセージ】

1. 英語に触れるひとときを、生活の中に組み込むことが肝要です。
2. 実用的な音声面の英語学習には、NHKラジオ・テレビの語学番組がお勧め。

【その他】